

逆井城跡(猿島郡猿島町)

さかさい

築城年代:享徳5年(1456)年、築城者:逆井常宗

ここが逆井城跡入口





1曲輪、2曲輪が堀に囲まれた縄張で、差し詰めこの道が2曲輪への大手道ということか/北方向を見たところ



冠木門とその左手に物見櫓が見える



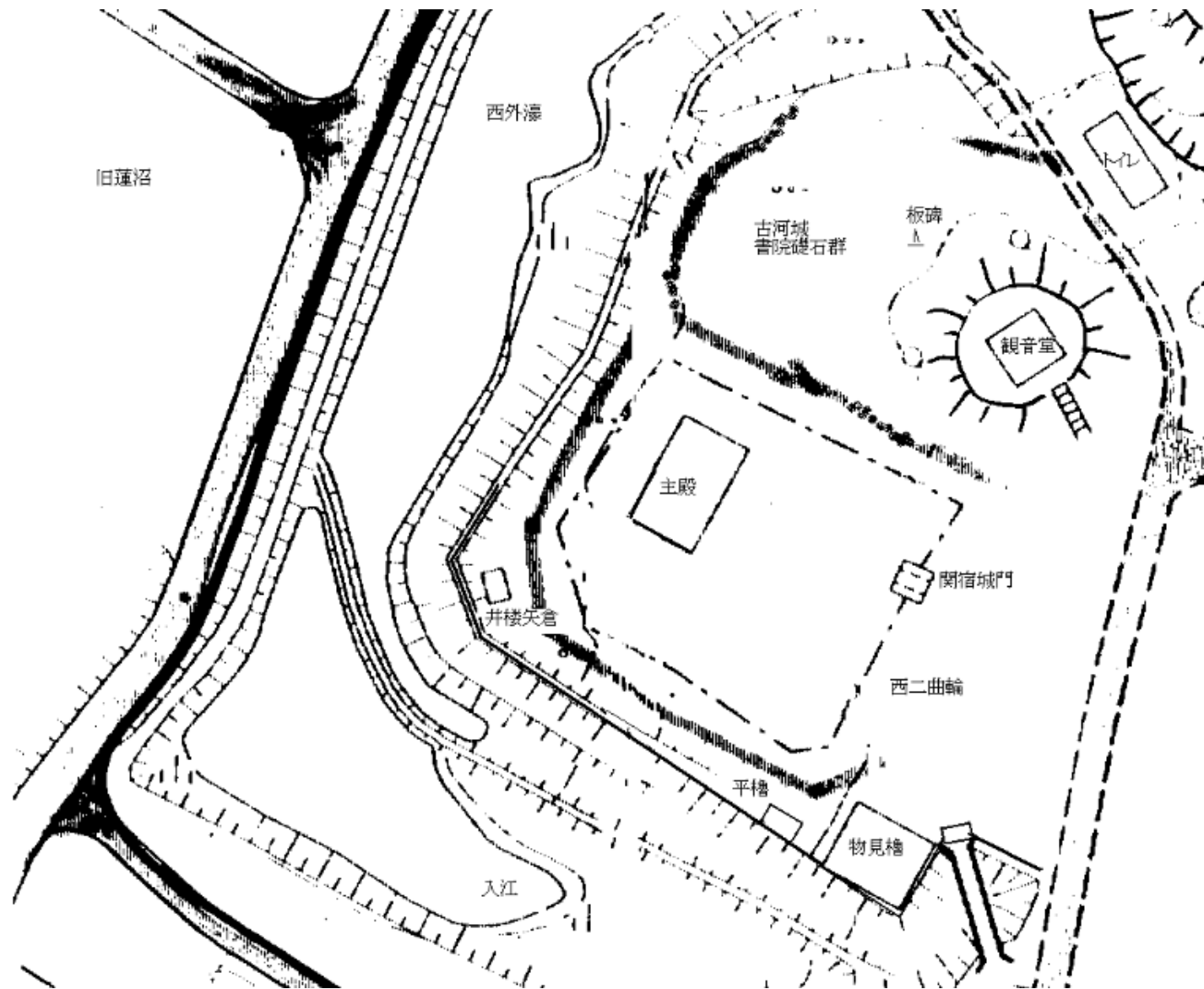
逆井城の歴史

逆井城は、飯沼に臨む標高20mの台地先端にあり、城の北側は飯沼が洗い、西側は入江の蓮沼に接していました。飯沼は江戸時代の新田開発により湖水はなくなりましたが、およそ幅1km・南北30kmにわたり、その名残を残しています。今から約410年前の戦国時代に、この飯沼が小田原の後北条氏と佐竹氏・結城氏・多賀谷氏らの領国の境目でした。

進攻を続ける後北条氏は飯沼に築城をはじめ、天正5年(1577)10月、北条氏繁(玉縄城主)は、藤沢より城の建物をつくるため大鋸引の職人をよんでいます。城主となった氏繁は、盛んに佐竹・下妻方面の動勢を報告していますが、翌天正6年(1578)にこの飯沼城中で没し、その後氏舜が城代となりました。

天正18年、豊臣秀吉は小田原城に後北条氏を滅し、この飯沼城も廃城となりました。





坂東市観光協会 縄張図

冠木門/この向こうが2曲輪(左手が西2曲輪、右手が東2曲輪)



正面が物見櫓/左手が平櫓/空堀越しに見たところ



その左手を見たところ/右手が平櫓、左手が井楼矢倉/土塀で囲まれている



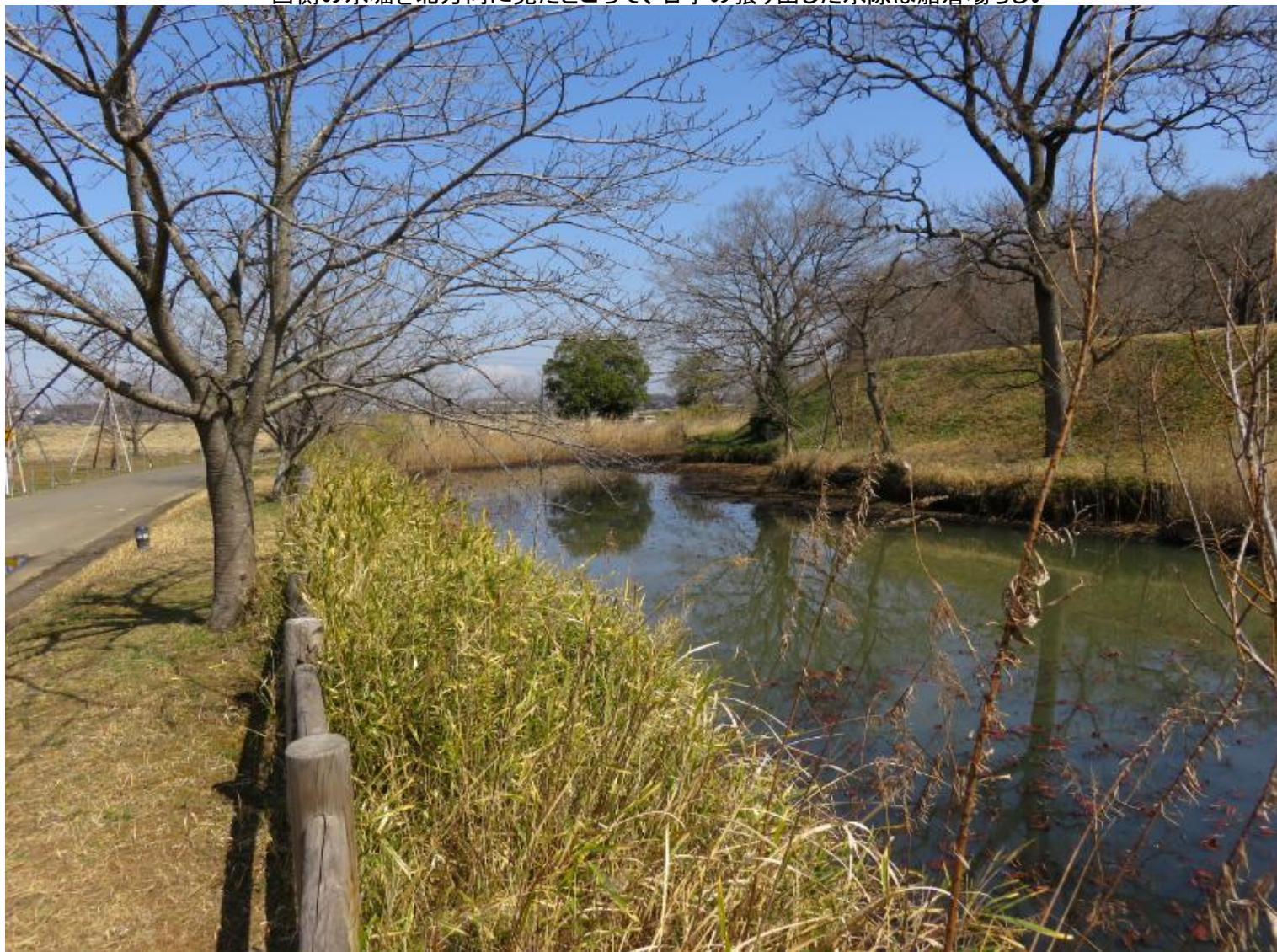
西側の堀は西仁連川の入江を利用した水堀となっている



西側から東方向に見たところ



西側の水堀を北方向に見たところで、右手の張り出した水際は船着場らしい



その先はこんな感じで北側の西仁連川に続いていたようだ



ここはその先にある西側から西2曲輪へ入るルート/水堀の向こうは土塁/後程ここを進んでみよう



そこから南方向に振り返ったところ



さて、物見櫓へ行ってみよう



この橋を渡って進む/ここが大手口



正面に門がある



側面から見た物見櫓



門の中に入ろう



ここは西2曲輪/左手に見えるのは主殿入口の薬医門で関宿城から移築されたものと云う



これはそこで振り返って見たところ



その右手が物見櫓(二層櫓)/手前に説明坂がある



に もろ やくら 二層櫓

この二層櫓は、戦国時代末期の時代背景を
基に、外観二層の容姿をもつ戦国期の櫓を復
元したものです。近世の隅櫓ではない時代を
感じる櫓として、6m四方の平面を持ち、入
母屋の望楼ぼうろうに下見板張り等の外壁によって当
時の景観を再現しています。

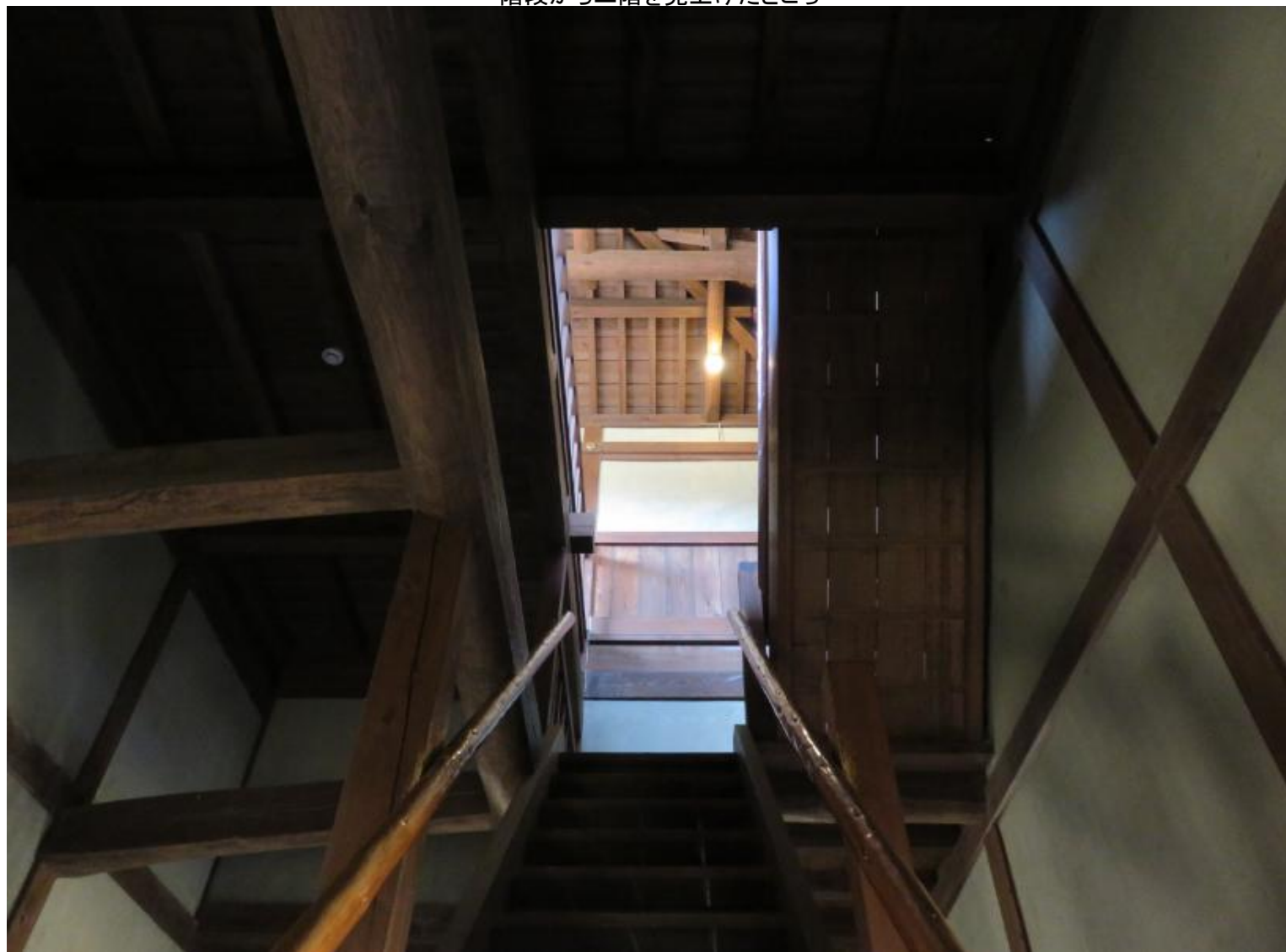
- 建築面積 / 64.39㎡
- 構造 / 木造
- 外壁 / 土壁・日本下見張
- 軒裏 / 杉板目
- 屋根 / 木葺風銅板
- 床面積 / 82.2㎡
- 最高の高さ / 10.592m
- 最高の軒高さ / 8.47m

中へ入ってみよう





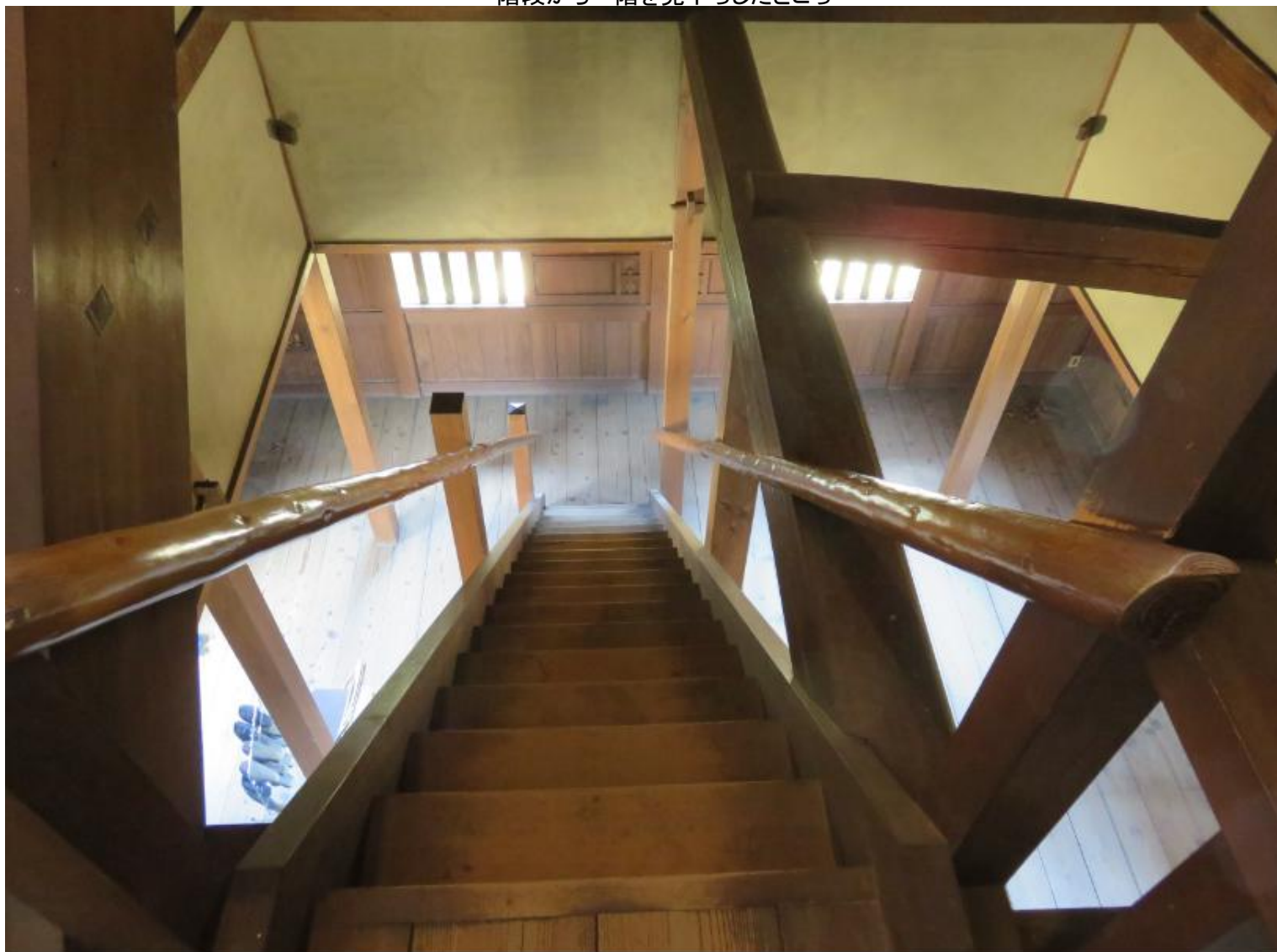
階段から二階を見上げたところ



二階の屋根裏



階段から一階を見下ろしたところ



南方向を見たところ



南側の空堀を見下ろしたところ



右手を見るとこんな風に左手の堀の中央部には畝があり、堀が二重になっている



そして平櫓と井楼矢倉が見える/右手は主殿



これは北方向を見たところで西2曲輪と左手に主殿入口の薬医門が見える



これは東方向を見たところで冠木門と大手口の橋が見える



さて、物見櫓を出て平櫓(正面中央)と井楼矢倉方向に進もう



これは南側から見た平櫓



正面中央は井楼矢倉



これが井楼矢倉



せい ろう や くら 井楼矢倉

井楼矢倉は米を蒸す蒸籠せいろうと同じように、井形に組んだ方形材を次々と組み上げた矢倉です。

井楼矢倉の役割は、

- ①物見矢倉として敵の動勢を監視する。
 - ②味方の全軍の動勢を把握する。
- など、軍事的なものです。

このような矢倉の役割が発展・大規模化したものが近世城郭の天守閣で、城主の威厳を誇示した政治的役割が加味されています。

この井楼矢倉は戦国時代末期のものを復元したものです。

■間口・奥行とも2.73m・■高さ/11.86m

これは南側から見た井楼矢倉



さて、井楼矢倉に登ってみよう/これは北方向を見たところで正面は主殿



これは南東方向を見たところ/左手は平櫓と物見櫓



これは南西方向を見たところ/水堀が南側から西側に廻り込んでいる



これはその右手の北西方向を見たところで土塁と水堀が続いている/右手は主殿



さて、井楼矢倉を出てその土塁上を北方向へ進んでみよう/土塁は微妙な折れを見せている



そこで左手を見たところで、張り出した水際は船着場らしい



同じく右手を見たところで、このエリアも西二曲輪



その西二曲輪にこんな石の配列があった/これは古河城の書院礎石を復元したものらしい



さて、これが関宿城から移築された主殿入口の葉医門





せき やど しょうもん
関宿城門

関宿城の城門と言い伝えられるこの門は、本柱が門の中心線上から前方にずれている薬医門と呼ばれるものです。

関宿城は久世氏が城主を努めていましたが、明治2年の廃藩置県により久世氏は関宿知藩事となり、城も明治6年に大蔵省の所管となって廃城となりました。

その後、建物の一部は民間に払い下げられ、残りの建物は取り壊されてしまいました。この時に払い下げされたものの一つがこの城門と伝えられ、町内の鶴見栄助氏宅つるみ えいじょにあったものを移築しています。

その中に見えるのが主殿



しや てん 主殿

この主殿は、茨城県牛堀町で発掘調査された大台城遺跡発掘の折出土した主殿遺構を参考に、復元されたものです。大台城は1595年頃に築城されたもので、逆井城と同時代に存在していたものです。

構成は正面から見て右側半分が主室で、左側半分がその控室的な部屋となっています。主室の三間に三間の部屋構成は「九間の間」と言われるもので、室町時代中期の主殿建築の特徴的なものです。前面には枯山水庭園が広がっています。

■間口/11.46m ■奥行/5.73m ■高さ/6.85m

大台城遺跡発掘調査結果を基に復元されたものという





枯山水庭園/前方に物見櫓や平櫓が見える



さて、これは主殿の北側にある観音堂



かん のん どう
観音堂

この観音堂は大安寺（岩井市）にあったものを町が譲り受け、移築・復元しました。

天正16年（1588年）建立時の棟札と弘化2年（1845年）再興時の棟札が現存しています。これにより、天正16年の上棟後、幕末に改造の手が加えられたことが判明しています。しかし、木柄の大きな角柱の面取り、舟肘木ふなひじきなどはいずれも天正期特有の様式を良く残していますので、非常に貴重な建築物として町指定の文化財となっています。

堂内は板敷で、天井は棹縁天井さおぶちとなっています。

1588年の建立という/木柄の大きな角柱の面取り、舟肘木など天正期特有の様式をよく残しているという/東側から見たところ



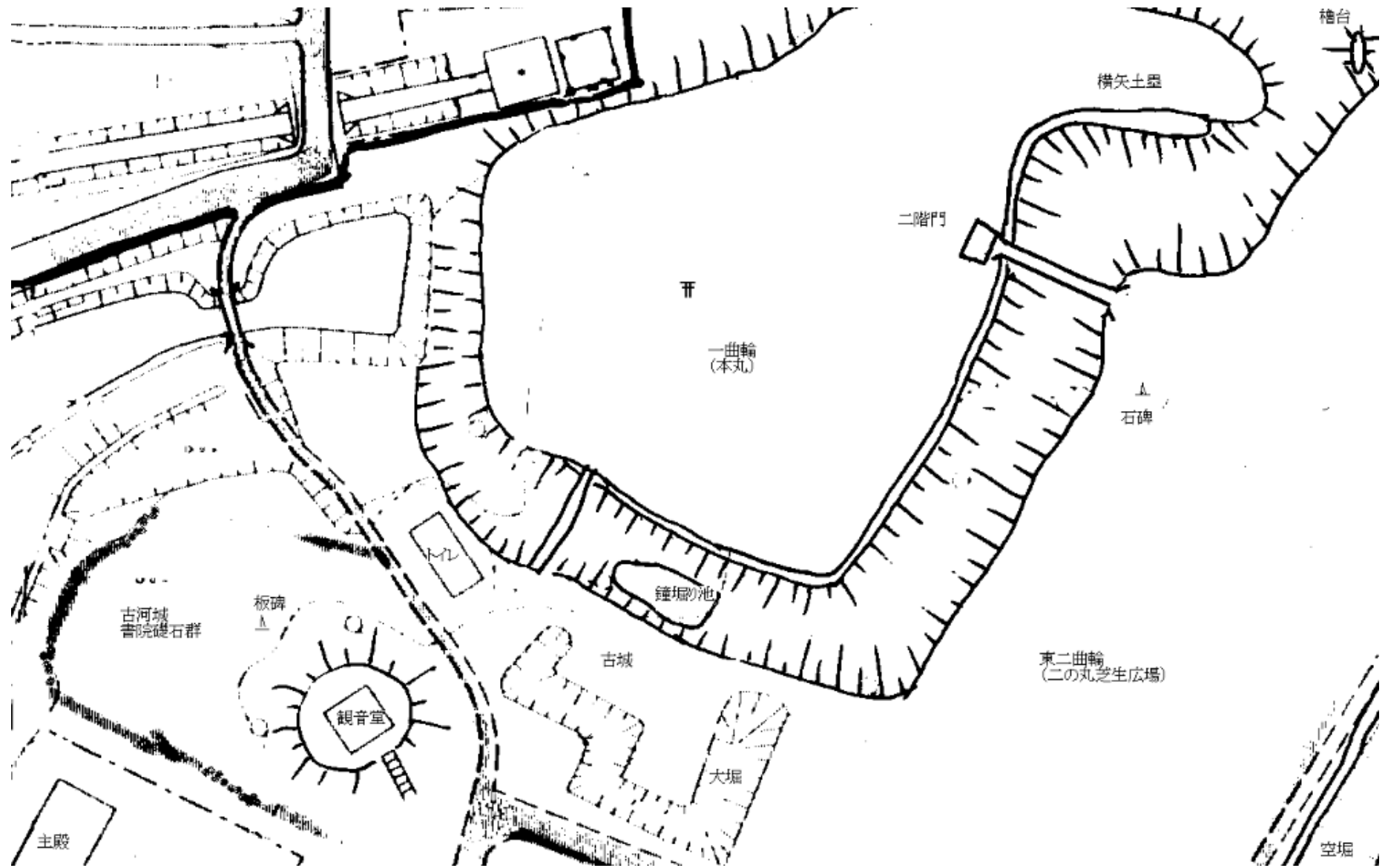
西側から見たところ



傍にこんな板碑があった







坂東市観光協会 縄張図

さて、先に見た西側から西2曲輪へ入るルートを進んでみよう



水堀を渡ると両サイドは土塁となっている



左手(北方向)を見たところ/前方奥の小高い林の中は一曲輪(本丸)



右手(南方向)を見たところ



その土塁の内側で南方向を見たところ/土塁は微妙な折れを見せている



同じく北方向を見たところ/前方奥の小高い林の中は一曲輪



東方向へ進んでみよう



左手には一曲輪(右手)を取り巻く空堀がある/所々、湧水が溜っている



その空堀に下りて東方向を見たところ/左手が一曲輪



その先はこんな感じ



手前の高まりは西二曲輪(右手)から一曲輪(左手)への土橋のようだ/少し先に柵で囲まれたエリアがある



ここがそれで鐘堀池と云うようだ



振り返って土橋を見たところ



これはその土橋を西二曲輪から一曲輪方向(北方向)へ見たところ



これはそこで東方向を見たところで、正面前方に空堀に囲まれた平場がある/逆井氏の古城跡の一部らしいが、角馬出しとも



ここは「古城」への土橋



右手を見ると空堀は折れを伴っている/右手は西二曲輪のエリア



その堀底に下りて東方向を見たところ



「古城」(右手)への土橋を南側から北方向に見たところ/正面遠方は一曲輪



さて、この平場が「古城」



左手に説明板があり、柵の下が鐘堀池/その向こうが一曲輪



かな ほり いけ
鐘掘池

天文5年（1536年）3月3日、ときの逆井城主逆井常繁は、北条氏康方の大道寺駿河守の城攻めに敗れ戦死しました。この時、城主の奥方（娘か）は先祖代々伝わる釣鐘をかぶってこの池に飛び込み、自殺したとされています。この釣鐘を捜そうと何人もの人が池を掘ったため、「鐘掘池」とか「鐘掘井戸」と呼ばれています。

この池はどんな早でも水が枯れたことがないと言われるほど、湧水が豊かです。城の生活水を賄うために掘られたのではないかと考えられています。

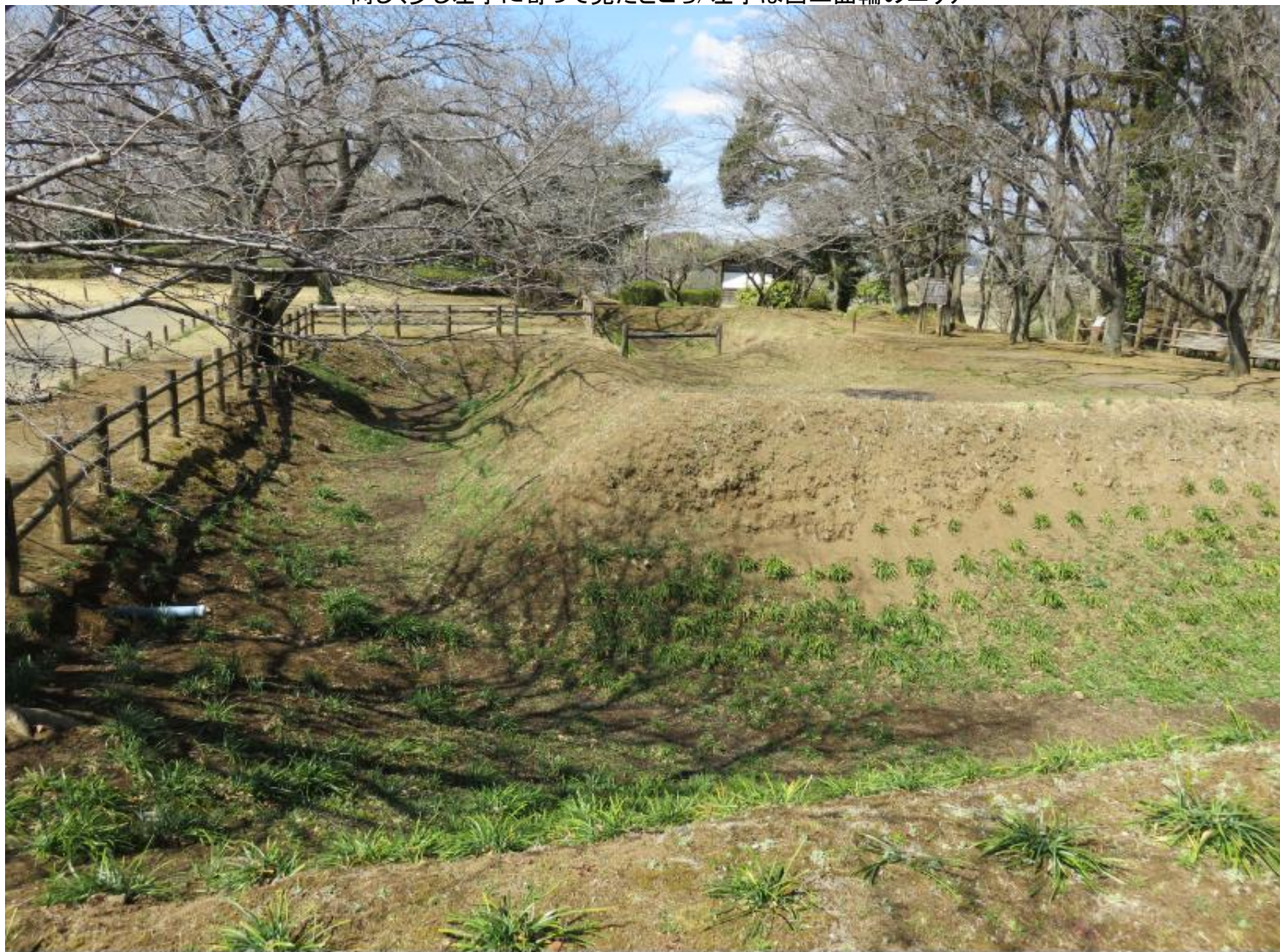
こんな具合



これは空堀越しに「古城」を東側から西方向に見たところ



同じく少し左手に寄って見たところ/左手は西二曲輪のエリア



そこで南側から北方向を見たところ



これが空堀の折れの部分



さて、前方は東2曲輪のエリア



これは東2曲輪を西側から東方向に見たところ



東側から西方向に見たところ



南側から北方向に見たところ



北側から南方向に見たところ



これはそこで振り返って北方向を見たところで、手前に西仁連川が流れている/その向こうの水田一帯は「旧飯沼」で、江戸時代の干拓によって現在の水域は西仁連川となっているという



さて、前方に石碑とその背後に櫓門(二階門)が見える





左手に説明坂がある



やくらもん はし
櫓門と橋

この櫓門と橋は逆井城跡の発掘調査の成果をもとに復元されています。

橋の遺構は礎石・男柱・支柱の柱穴、柱桁支柱の穴がみつかっています。また、櫓門の遺構としては、東西に三個ずつ二列で方形に結べる柱穴と雨後溝がみつかっています。

復元にあたっては遺構保存のため、旧柱位置より西へ1m、北へ50cmずらされています。なお形については、史料を基に戦国時代末期の姿を想定しています。

- 間口／3.03m
- 梁行／2.07m
- 高さ／5.95m

櫓門の向こうが一曲輪



橋の上から左手に空堀を見たところ



同じく右手に空堀を見たところ/すぐ先で折れを伴っている



これが櫓門/両サイドは土塁



左手に土塁を見たところ



同じく右手に土塁を見たところ



これは振り返って東2曲輪方向を見たところ



少し退いて見たところ/両サイドは土塁



左手の土塁を見たところ



右手の土塁を見たところ



ここが1曲輪/北側から南方向に見たところ



これはそこで振り返って北方向を見たところで、手前に西仁連川が流れている



その左手を見たところ



同じく右手を見たところ



1曲輪を西側から東方向に見たところ/中央に小祠がある



これがその城山大権現



これは南側の1曲輪を取り巻く土塁上に登って東方向を見たところ



そこから南方向を見たところ/前方に西側から西2曲輪へ入るルートにあった橋が見える



土塁上を進んでみよう



途中、右手を見ると1曲輪と前方の西2曲輪を結ぶ土橋が見える/左手は鐘堀池の柵



これが1曲輪から見た鐘堀池/その向こうは「古城」



更に土塁上を進む/左手にカーブしていく



これがそのカーブする空堀の角/空堀の向こうは東2曲輪



更に土塁上を進むと櫓門が見えてきた



さて、これは空堀に下りてその櫓門を見上げたところ/この部分の空堀は折れを伴っており、右手の土塁上からは横矢が掛る



橋を潜って進んでみよう/右手が1曲輪



前方で空堀が右手にカーブしている



ここが先程土塁上から見たそのカーブする空堀の角



カーブした先には鐘堀池の柵が見える/右手が1曲輪



鐘堀池



さて、橋のあった場所へ戻ろう/左手が1曲輪



空堀は橋の向こう側で折れを伴っている/土塁も折れて(横矢土塁)、横矢が掛る



こんな塩梅



その先は北側を流れる西仁連川(柵の向こう)へと続く



正面の西仁連川に落ち込んで行く名残りか/この辺りには櫓台があったようだが



その左手はこんな感じになっている/左手が一曲輪

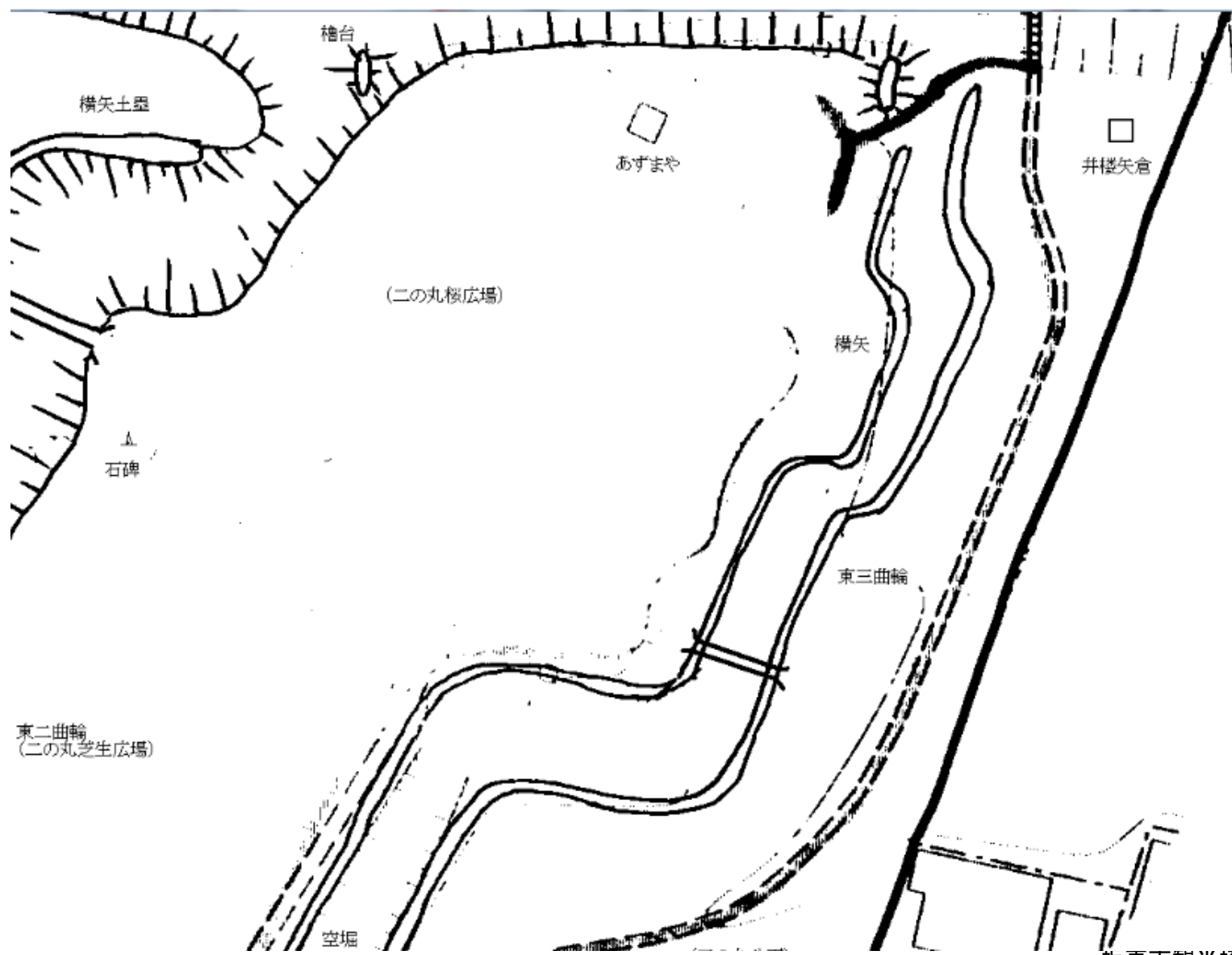


柵の向こうは西仁連川



これは柵の辺りから南方向に一曲輪を見たところ/当時は西仁連川が正面の辺りまで迫っていたのだろう





坂東市観光協会 縄張図

さて、ここは東2曲輪の東側の3曲輪(坂東市観光協会の縄張図では東3曲輪となっている)/右手は東2曲輪と東3曲輪を仕切る土塁(土塁は二重になっており、その間は空堀)/北側から南方向に見たところ



そこで振り返って北方向を見たところ/西仁連川が見える



しいぬま
飯沼

前方に広がる水田が旧飯沼です。戦国時代末期、旧飯沼は現在の水海道市・岩井市・結城郡石下町・八千代町・猿島郡三和町そして猿島町と、二市四町にまたがる東西約1km、南北約20kmの沼でした。その後、江戸時代の享保9年（1724年）に八代将軍徳川吉宗の命により干拓が行なわれました。

逆井城は標高20mの高台にあり、自然の要害としてのこの飯沼に守られ、佐竹・結城・多賀谷氏らとの領国の境目として、北関東進出をめざす後北条氏の最前線基地となっていました。

これは3曲輪を南側から北方向に見たところ/左手は3曲輪と東2曲輪を仕切る土塁/正面前方に二つ目の井楼矢倉が見える



これがその井楼矢倉



井楼矢倉の上に登って南方向を見たところ/正面の平場が3曲輪で、右手は3曲輪と東2曲輪を仕切る二重の土塁が南方向に延びている



同じく東方向を見たところで、この畑地も3曲輪のエリアのようだ



同じく北方向を見たところ/西仁連川と旧飯沼が広がる



同じく西方向を見たところ/二重の土塁の向こうに東2曲輪の平場が見える



さて、その二重の土塁(比高二重土塁)の間の空堀を南方向に進んでみよう/左手が3曲輪、右手が東2曲輪



これはそこで振り返って北方向を見たところ/この先は西仁連川へ下って行くようだ



これは左手の土塁上で南方向を見たところ/左手が3曲輪/土塁は左手に折れを伴っている



これは右手の土塁上で南方向を見たところ/右手が東2曲輪/土塁は左手に折れを伴っている



空堀もこんな風に折れている



説明板が立っている



よこ や かが 横矢掛り

土塁に凹凸や屈曲を設けることを横矢を掛けると言います。横矢掛りは虎口や土塁に近づいた敵を、横から攻撃するためのものです。

横矢は虎口と共に発達しました。ここ逆井城では、橋と並行する土塁が横矢掛りとなり、敵を攻撃する矢や鉄砲などを射かけやすくする場となっています。

現在、土塁は往時の姿より低くなっていますが、空堀にかかる橋よりも高く、復元した櫓門に対し、効果的な守備を発揮できるような位置となっています。なお、東側の二曲輪にも横矢土塁がみられます。

横矢掛りとなっている



更に南方向に進もう/前方で右手に折れている



そして今度は左手に



前方に橋が見えてきた



これがその橋/向こうが東2曲輪

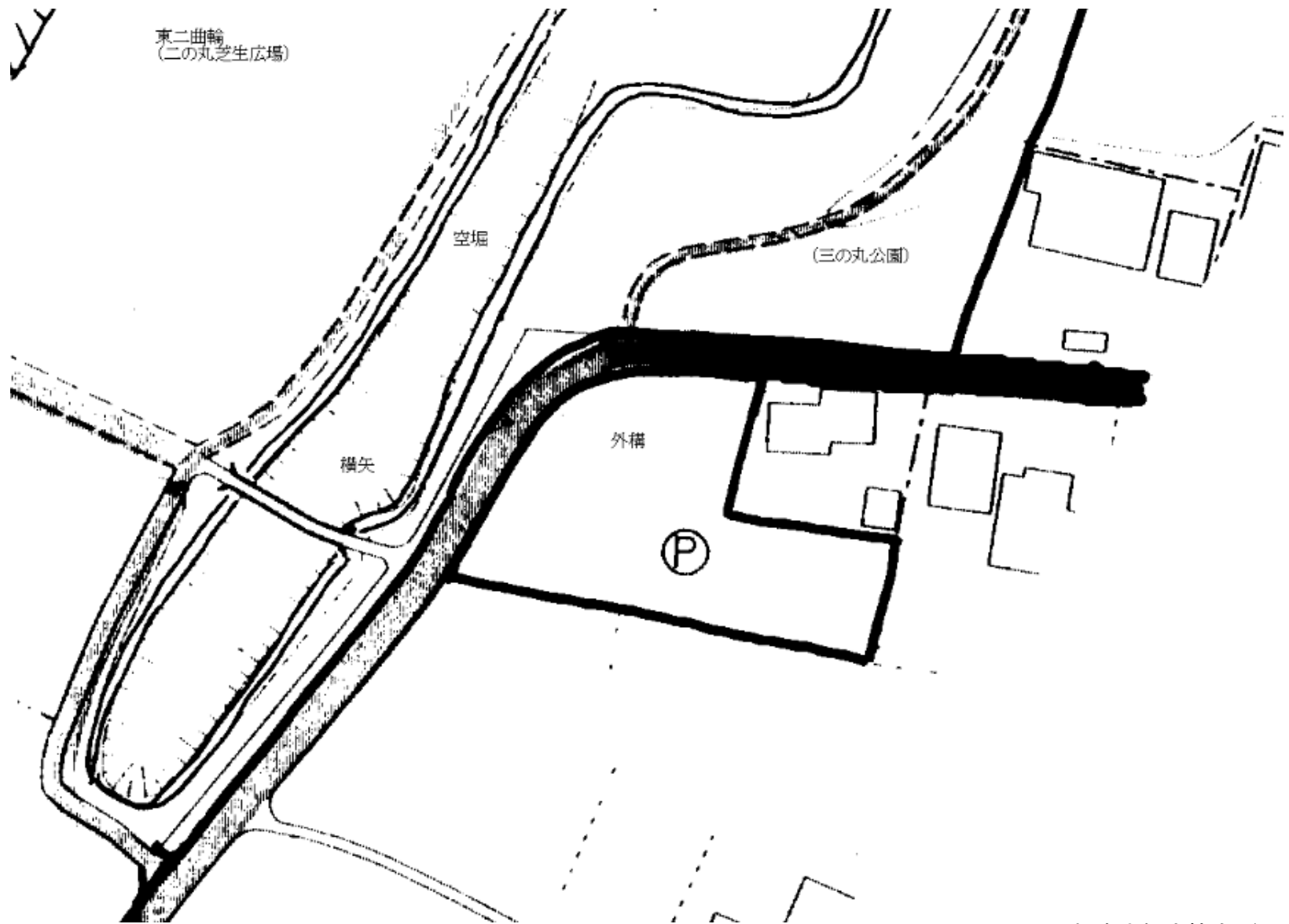


左手を見たところ/前方でまた折れている



更に進んでみよう





坂東市観光協会 縄張図

こんな感じで南方向に続いている



前方にまた橋が架かっている



こんな塩梅



これがその橋/向こうが東2曲輪



橋の上から南方向を見たところ



堀底に下りて南方向を見たところ



ここで空堀は終わっている/右手が3曲輪



さて、ここは南東外郭のエリアにある八幡神社





そこから北西方向に東2曲輪方向を見たところ



参考ホームページ

<http://umoretakojo.jp/Shiro/Kantou/Ibaraki/Sakasai/index.htm>

http://bandokanko.jp/modules/pico/index.php?content_id=29

<http://otakeya.in.coccan.jp/info02/sakasai.htm>

<http://blog.aoplanning.com/general-ground-castle-sakasai/>

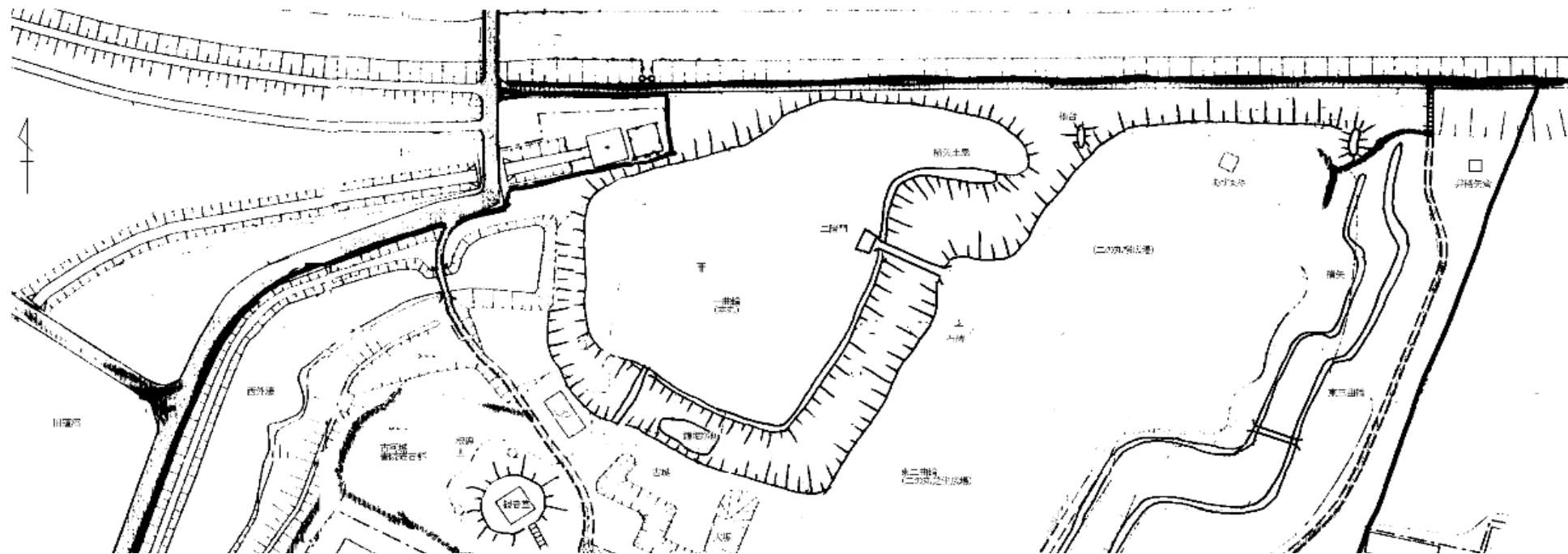
<http://www.hb.pei.jp/shiro/shimousa/sakai-ijo/>

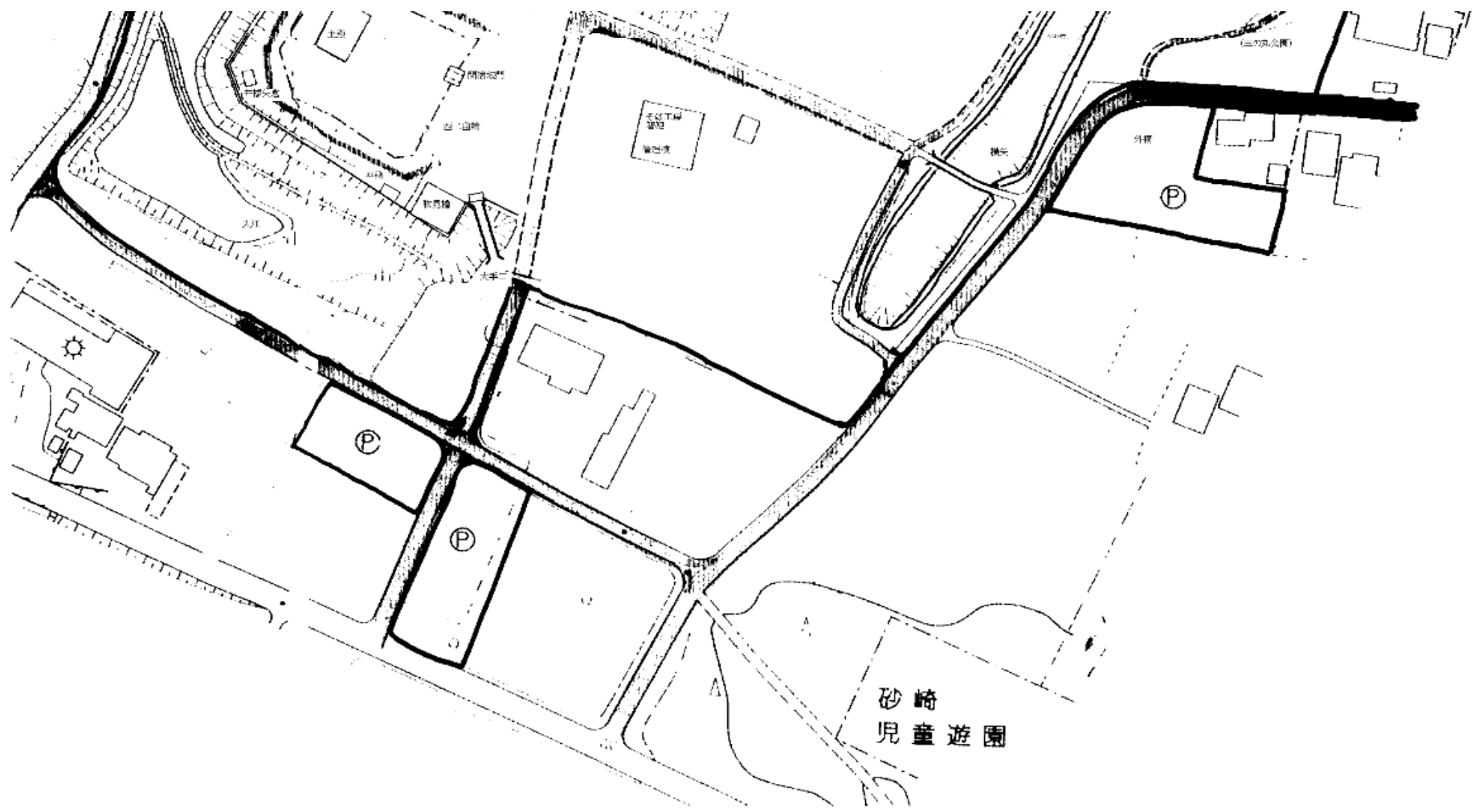
<http://www.asahi-net.or.jp/~qb2t-nkns/sakasai.htm>

http://www.geocities.jp/y_ujoh/kojousi.sakasai.htm

<http://www.geocities.jp/hoshinoufo20/sakaijou.html>

<http://tochigi-burg.com/sakasai.htm>





坂東市観光協会 縄張図